



銅精錬工場の作業



私はこの本の版画にチ
エーの使用例が多くあ

鉄のふしぎ? 博物館

■51

『デ・レ・メタリカ その真価』

ラテン語
で書かれ1
556年に
発刊された
この本が、
ドイツ語に
翻訳され、
イタリア
語、英語、
日本語と4
00年以上
の長期間に
亘り、各国
の言語に訳
されまし
た。現在、

アグリコラは『デ・レ・メタリカ』の序文で、古今の文献への精神を示していると同時に、自分で見聞きしたものや信頼できる人から聞いたものや読んだもの以外のは書かなかったことを明言している。そして、当時偏見視されていた鉱山師の世界について、鉱山師の職業は汚らしいものではなく誠実な職業である旨を強調している。また、本書は重量単位の比較を細かな数値をもって記述しているのも特徴的で、さらに機械の道具や建造物、そしてその作業の様態が、本文の記述とならんで、292枚におよぶ精密で見事な木版画の挿絵で表現されており、当時の鉱山が大規模に機械化されていた様子を鮮やかに伝えている。その意味で、16世紀の挿絵つき専門書の最高峰であるともいえる。

『デ・レ・メタリカ』は、近代最初の機械工学の教科書として、技術伝播の新しい可能性を拓いた。以下略（注①）

ることを知り、英語版のページをめくり画像を見つけては資料としてファイルしています。そのチエーの使用法は現在にも通じるもので、非常に興味を持っています。（画像①参照）

この本の英語版（翻訳後100年余り経過）が入手できるのは驚異的なことです。こんな寿命の長い本は聖書や仏典、宗教関連の図書以外には見当たりにません。（表①参照）

大勢の人々は、この本のどこに大きな価値を見いだしたのでしょうか。以下に、京都大学21世紀COEプログラムに紹介された内容を転載します。（囲み記事参照）

衣川製鎖工業・衣川良介社長

『デ・レ・メタリカ』

は1の巻―12の巻の構成で鉱山に携わる人々を啓蒙しています。和訳した三枝博音氏の『デ・レ・メタリカ』を世に出した山崎俊雄が付した目次によると以下です。鉱山業者は、

1の巻 実際の術と学問に精通してなくてはならぬ

2の巻 鉱山師の心得と採鉱の着手

3の巻 鉱脈・亀裂および岩層について

4の巻 鉱区の測量と鉱山師の職分

5の巻 鉱脈の開掘および鉱区測量の術

6の巻 鉱山用の道具および機械

7の巻 鉱石の試験法

8の巻 鉱石の選別・粉砕・洗鉱および焙焼の方法

9の巻 鉱石溶解の方

法（表①）

初版	1556年	ラテン語
	1557年	ドイツ語
第二版	1561年	ラテン語
	1563年	イタリア語
	1621年	ドイツ語
	1912年	英語
	1968年	日本語

10の巻 貴金属と非貴金属とを分離する方法
11の巻 金・銀を銅・鉄から分離する方法
12の巻 塩・曹達・明礬・礬油（硫酸）・硫黄・瀝青および硝子の製法

（注①） 京都大学21世紀COEプログラム「活地球圏の変動解明」教育・研究基盤整備事業
http://www.pla.netology.jp/rarebook/001detail.html